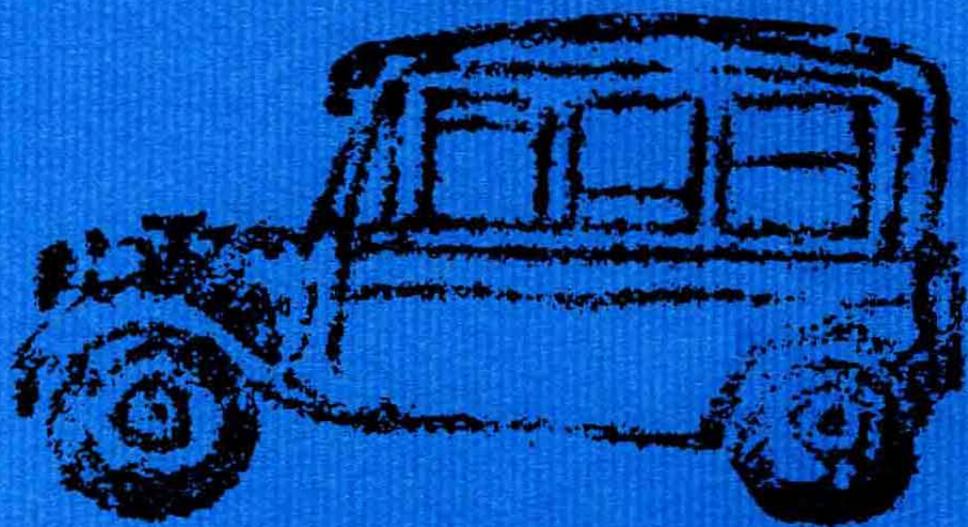


# 流星

第 10 号



昭和52年度～昭和54年度

九州工業大学責善会自動車部

## 目 次

巻頭言 1980年代を迎えて近頃考えたこと	
部長・藤原	1
主将あいさつ 主将・高須賀	2
幹部紹介	3
部車紹介	6
試合成績(52・53・54)	8
フィギュアにて思うこと 福川	12
フィギュア新人戦優勝 浦田	13
春期遠征(52・53・54)	15
九州一周遠征記 須藤	22
昭和54年度中国・東海地方遠征記 尾辻	24
3年半をふり返って 大原	27
自動車部に入部して 山本 寄付	31
昭和54年度役員部員名簿	33
編集後記	36

## 巻頭言

### 1980年代を迎えて近頃考えたこと

部長 藤 原  
(心理学教授)

『“一日生きることは、一歩進むことでありたい”』

実際、私は昔からずっと今日の一日に、何がしかでも進みたいと思いながら生きてきた。

ところで進むとか進歩するとかいうのは、一体何が進歩するのか。(中略) 今後の人類は目先の結果だけでなく、先々までよく考えてから行動しなければならない。人類全体としても個人個人も、叡知を働かせて、何が本当の進歩であるかを見きわめなければならない。』と、これは湯川秀樹博士がある随想集の中に書かれている言葉である。

“進歩することと、何が本当の進歩であるかを見極めること”は、今日の科学技術にたずさわる人々がなさねばならない大切なことではあるまいか。

大学の学園生活を振り返って見よう。ある大学の相談室の調査によると、目標をもたないとか見失っている学生の多くは、留年又は退学をしていく例が多いと報告している。

我々の学園の中にもこうした例がないと言い切れるだろうか。果して自動車部はどうなのだろうか。幸い私は部員の中に流れに流されて、主体性のないままに部生活を送っているものは少いと信じている。

しかし、もう一歩深く突き進んで考えてみよう。

時代が移り変わり部生活の内容も変った筈だが、年中行事にも、新しさも創造性も感じさせられない。伝統を守り、引きつぐのはすばらしいことだ。しかし今日の学生が今日にしか出来ない行事が一つ位い、生れて来てもよいのではないか。それも自分達の大学の特質にかかわるようなものが生み出されてもよい

のではないか。

自動車部も昔と異り進歩した筈だが、何が進歩したのか、進歩とは何か、生きるとは何か、本物とは何なのか、考えてみてはどうだろう。そこから何か本質的なもの、創造的なものが生み出されるのではないかと思えてならない。

<目次へ戻る>

## 主 将 あ い さ つ

主将 高須賀 (機Ⅱ3)

我自動車部は、責善会創立以来の長い伝統を持ち、現在では部員数も60名を越える体育系最大のサークルです。

その活動においては、春の遠征、スカベンジャー・ドライブコンテスト、フィギュア、ラリー、整備等の各方面に実力を発揮しております。特に最近では、フィギュアで全九戦上位入賞を果たし、またラリーにおいても、学生ラリー、社会人ラリーとその活躍の場を広げております。そして今年で第17回を迎えるKITナイトラリーは、あまりにも有名となっています。日常活動においても、競技のみに留らず有意義な団体生活を送っていると言えるでしょう。

こういった活動の反面、構内車輛規制、ガソリン値上げ、ラリー批判といった問題に直面しているのも事実です。ここで我々がもう一度見直さなければならぬのは、「安全運転」という自動車部本来の姿です。我々が「車」を扱う以上、社会的責任がのしかかってくるのは当然の事です。この事を部員一人一人が胸に刻み、今後いっそう部の発展に寄与して行きたいと思っています。

最後に、自動車部をここまで育てて下さった藤原部長並びに先輩諸氏に部員一同深く感謝致します。

## 幹 部 紹 介



監督 大 原

下宿住まいのとき、いつも乗ってきていたFTOは自宅住まいになった今では、ほとんど見られない。たよりない幹部をいつもビックリしたような顔で、あたたかく見守ってくれたガマンの人。



主将 高須賀

個性の強い幹部の中で最も個性の強い人で、独断と偏見で部をひっぱっていき、いつも胸をはって、最もえらそうな顔をしていた人。



副将兼フィギュア 藤 本

通称フーさんと呼ばれ、自動車部の流行語の源。顔に似あわず、あり余るほどの単位をとっていて、水戸黄門の歌を得意としている。



副将兼ガソリン会計 須 藤

九州遠征のとき、どのユースホステルのばつゲームでも最後まで残り、ユースのスターになった人。愛車サニーGXに乗るスピード狂。



#### 書記 島村

朝まるで弱い秀チャン。遠征のとき「秀チャン起きなさい。」と起こされて、「きょうは、休み。」と寝てしまったのは、あまりにも有名。



#### 会計 武藤

太っていることと、いつもにやにや笑う温和な性格から、太っ腹会計といわれる。

藤原杯初優勝など近頃ラリーにのっている。



#### ラリー委員長 三原

赤のランサーGSRに乗り、社会人ラリーにもよく出場しているのだが、入賞したといううわさは……。

KITナイトラリーの試走には大活躍。



#### 整備委員長 山口

一風変わった声と顔で、他の部員にせまってくる。

いつも藤原杯ラリーには、一年と参加し、みんなの同情をさそっている。



体育幹事会 徳 永

ノーマルFTOで、ダートを走り回るのが大好き。  
オイルパンを割る腕前は天下一品。



連盟連絡委員 石 井

自動車部のあいざき進也。  
この人の声を聞くと、男でもムラムラッとくる。  
個性の強くないのが、この人の個性である。



OB連絡委員 石 松

焼肉食い放題の王者。  
この人が焼肉屋に現われると、お店の人がまっさおに  
なります。いまだかつて、自動車部でこの人の食欲に  
かなう人はいませんでした。



OB連絡委員 山 本

前々幹部の帆足さんによく比較される自動車部の紅  
一点。永遠の処女。

## 部 車 紹 介



いすゞジェミニLT (51年式)

走行距離 37671.8 km

車検 55年8月



いすゞエルフ (49年式)

走行距離 49651.0 km

車検 55年6月



スバル1300G（45年式）  
走行距離 84909.2 km  
車検 55年7月  
伊東 先輩（22年卒）より寄贈



ギャランGS（46年式）  
走行距離 84355.0 km  
車検 56年6月  
浜田 先輩（48年卒）より寄贈

（走行距離は、55年1月現在の距離です。）

以上の車は車検があり、ラリー、スポンサーまわり、遠征でもに活躍しています。

他にフィギュア練習車（車検なし）としてエルフ、セドリック（スペシャル6）、4ドアコロナ（RT40）、ファミリア、ブルーバードSSS（510）2台があります。

## 試 合 成 績

### 昭和 52 年度

#### 1. 第 18 回全九フィギュア選手権大会

男子団体戦 九工大 A チーム 9 位

九工大 A チーム 早田、四辻、榎本、坂田

九工大 B チーム 石田、松元、中村、太田 (大)

小型乗用 : 早田・9 位、石田・減点オーバー

普通乗用 : 四辻・障害物接触、松元・タイムオーバー

小型貨物 : 榎本・タイムオーバー、中村・タイムオーバー

大型貨物 : 坂田・タイムオーバー、太田 (大)・タイムオーバー

### 昭和 53 年度

#### 1. 第 13 回全九新人戦フィギュア

男子団体戦 九工大 B チーム 8 位

九工大 A チーム 徳永、府内、藤本、山口

九工大 B チーム 島村、福川、光成、三原

小型乗用 : 島村・7 位、徳永・13 位

普通乗用 : 福川・1 位、府内・障害物接触

小型貨物 : 藤本・12 位、光成・接脱オーバー

大型貨物 : 三原・7 位、山口・9 位

2. 第19回全九フィギュア選手権大会 6月18日

男子団体戦

順位	大学名	小型乗用	普通乗用	小型貨物	普通貨物	総減点
1	福岡大学A	169	207	125	87	588
2	大分大学	128	127	202	172	629
3	九州大学B	192	140	125	183	640
8	九州工業大学A	196	209	275	減点 オーバー	
	九州工業大学B	261	358	四輪脱	タイム オーバー	

九工大Aチーム 石田、福川、中村、三原

九工大Bチーム 島村、太田(敏)、藤本、山口

小型乗用：石田・9位、島村・10位

普通乗用：福川・6位、太田(敏)・12位

小型貨物：中村・9位、藤本・四輪脱

普通貨物：三原・減点オーバー、山口・タイムオーバー

3. 第17回全九州学生ラリー 7月29・30日

熊本・阿蘇周辺250km

九工大Aチーム ジェミニLT

石田、島原、福川、中村 オープン参加

九工大Bチーム スプリンター1400SL

太田(大)、大原、岩尾、淵上 5位

4. 全日本学生自動車連盟整備大会 名古屋於

選手名 太田(大)、大原、淵上、武藤、徳永

出場校男子63校中26位で予戦通過、本戦25位

昭和 54 年度

1. 第 14 回全九新人戦フィギュア

男子団体戦

順位	大 学 名	小型乗用	普通乗用	小型貨物	普通貨物	総 減 点
1	鹿児島大学 A	128	173	218	112	631
2	大 分 大 学	240	143	346	231	966
3	九州大学 A	293	145	473	109	1026
6	九州工業大学 A	435	144	タイム オーバー	426	
	九州工業大学 B	717	106	タイム オーバー	289	

九工大 A チーム 石井、武藤、寺田、尾辻

九工大 B チーム 白水、浦田、川村、畠中

小型乗用：石井・10位、白水・13位

普通乗用：浦田・1位、武藤・7位

小型貨物：寺田・タイムオーバー、川村・タイムオーバー

普通貨物：畠中・12位、尾辻・14位

2. 第 20 回全九フィギュア選手権大会 6月24日

男子団体戦

順位	大 学 名	小型乗用	普通乗用	小型貨物	普通貨物	総 減 点
1	西南大学 A	117	274	45	306	742
2	福岡大学 A	204	313	79	183	779
3	九州産業大学	131	275	408	357	1171
8	九州工業大学 B	293	422	334	減 点 オーバー	
	九州工業大学 A	193	タイム オーバー	357	障 害 物 接 触	

九工大 A チーム 島村、武藤、藤本、三原

九工大 B チーム 徳永、浦田、寺田、山口

小型乗用：島村・9位、徳永・14位  
普通乗用：浦田・8位、武藤・タイムオーバー  
小型貨物：藤本・10位、寺田・11位  
普通貨物：三原・障害物接触、山口・減点オーバー

3. 第18回全九州学生ラリー 7月28・29日  
大分周辺200km

九工大Aチーム ジェミニLT  
山口、島村、武藤、徳永 15位

九工大Bチーム ランサーGSR  
三原、石井、山本、大野 リタイヤ

九工大Cチーム スプリンター1200SL  
島原、川村、畠中、小野 14位

4. 全日本学生自動車連盟整備大会 八王子市於  
選手名 山口、武藤、三原、徳永、白水  
出場校男子62校中30位で予戦不通過  
尚、予戦通過は29位まで

## フィギュアにて思うこと

福川 (環境4)



客観的な見方をすれば、「自動車部」というのは実に格好がよく、多ぜいの人たちが憧れ、入ってみたいと思うクラブの1つであるように思われます。実は私もこのような単純な動機で入部してきたわけで、初めは自動車部とはいったい何をするのかよくわからず、月並みの想像をする程度でした。だから、1年のころは、先輩からやれと言われたことを素直にやるだけで、いったいどういうふうなことで今やらされているの

かよくわからないといったことも何度かあったような気がします。

しかし今振りかえてみると、いい経験になり、クラブに入っていてよかったと思えることが数多くあります。特にフィギュアの練習などは私にとって最も貴重な経験でした。フィギュアという競技を知ったのはやはり1年に入ったばかりの頃で、初めは“カン”とか“セツ”とか言いながらいったい何しようとかいなと思ったものですが、それがあの苦しい合宿につながり、新人戦で個人優勝できようとは夢にも思わなかったことです。ちなみに試合当日のことを思い出してみますと、あの時は本当に幸運だったようです。フィギュアの試合は一発勝負でやりなおしがきかないから一度失敗したらおしまい、その点、私の場合は、順番が最後だったから、競技内容に関する情報が少なからず入ってきて、割と楽に試合に臨めました。また、私は性格的に荒く、“シビア”にやるべきところも多少雑にやってしまうという欠点があって、その観点からすると、競技内容がかなりむづかしかったということも勝因につながったと思わ

れます。相対的に容易なものであったならば、練習量の豊富な他校の人たちの方がずっと早く、確実にやれたはずでしょうから。

こうしてみると、幸運というのは試合に勝つためには少なからず関係してくるようには思われますが、そういったものは全くの水物で期待するほどのものではなく、本当に大事なものは、毎日毎日練習して実力の向上をはかることだと思います。それがあつての幸運と逆に言えるかもしれません。我々の学校はどうしても他のことに追われがちで、他校に較べて練習量が少ないから、能率よく練習しないとよい成績を得ることは困難でしょう。だから、そのへんをよく考えて、今の1・2年生は全員で集中的に、また計画性をもたせてやってもらいたい。試合に勝つだけが能じゃないと言えばそれまでですが、やはりやるからには勝ってもらいたい。今後の向上を心から期待しています。

<目次へ戻る>

## フィギュア新人戦優勝

浦田 (機12)



自動車部の門をくぐると、そこはフィギュアの季節だった。入部してすぐ、フィギュアのフの字も知らないまま、合宿に参加していた。あれから1年が過ぎ、ついに練習の成果を発揮できる時がきた。それは、全九州フィギュア大会新人戦だ。

熊本に着くと、空は抜ける様な青さで、体調もまずまずだった。車は黒のセドリック。この車は、以前九大で練習した時と同じ車だった。その車は、非常にハンドルが重たかつ

たので、その事だけが気にかかっていた。とにかく、いつもの調子で、丁寧に

運転すればいいんだ、と自分に言い聞かせていた。

開会式が終わり、いよいよコース説明が始まる。スタート位置から、すぐ前進トレッド、それがたこつばに続いていて、左側輪と、後二輪を決めて、バックで出る。そのまま、右へ曲がって縦列駐車。次にクランクとスラロームを前進で抜けてゴール、というものだった。

それからコース検討をした。もうここから試合は始まっている。コースをいかに良く検討するかで、勝敗が分かれるからだ。そして選手控室で緊張している暇もなく、お呼びが掛かった。4番目の出場だったのだ。

ドアを開け、運転席にすわった。免許証を渡す手が小さく震えている。しかし、足は落ちついている。適度の緊張感だ。目に映るものは、トレッドとたこつばの線だけ、頭に浮かぶものは何もなく、耳から秒読みの声だけ聞こえてくる。5、4、3、2、1、スタート。右の窓から首を出して、線とタイヤのすき間を見ながら、車を動かした。たこつばにはいる前にブレーキング。おっと見かけによらず良く効くブレーキだ。たこつばにはいり、初めてハンドルを回す。思ったより軽いハンドルだった。しかし車にまだ慣れていないので動きがにぶい。一回一回丁寧に切り返してやっと決めの位置に車をつける。「はい」と叫ぶとすぐに笛が鳴った。出るのは簡単だった。

それから縦列駐車をクリアし、クランクにはいる。このクランクは、障害物付きだ。それに当たらないように一回ずつ切り返しをして、慎重に抜けた。このころになるとすでに車に慣れ、最後のスラロームを無事通過し、ゴールした。

疲れは全く感じなかった。しかし、汗が止めどなく流れてくる。頭には何もなく、とぼとぼと歩いて行くと、みんなの顔が見えた。みんな笑顔で迎えてくれた。同時に満足感で全身が満たされた。応援してくれてありがとう。



2. 参加車輛
- ・いすゞジェミニ1600LT (部車)
  - ・スバル1300G (部車)
  - ・ (福岡三菱より)
  - ・スバルレオーネ1400カスタム
  - ・マツダルーチェHT
  - ・トヨタプリンター1400SR
  - ・トヨタプリンター1200SLクーペ
  - ・ニッサンバイオレット1600SSSE
  - ・ニッサンサニー1200デラックス
  - ・ニッサンブルーバード1600SSS

3. 参加者

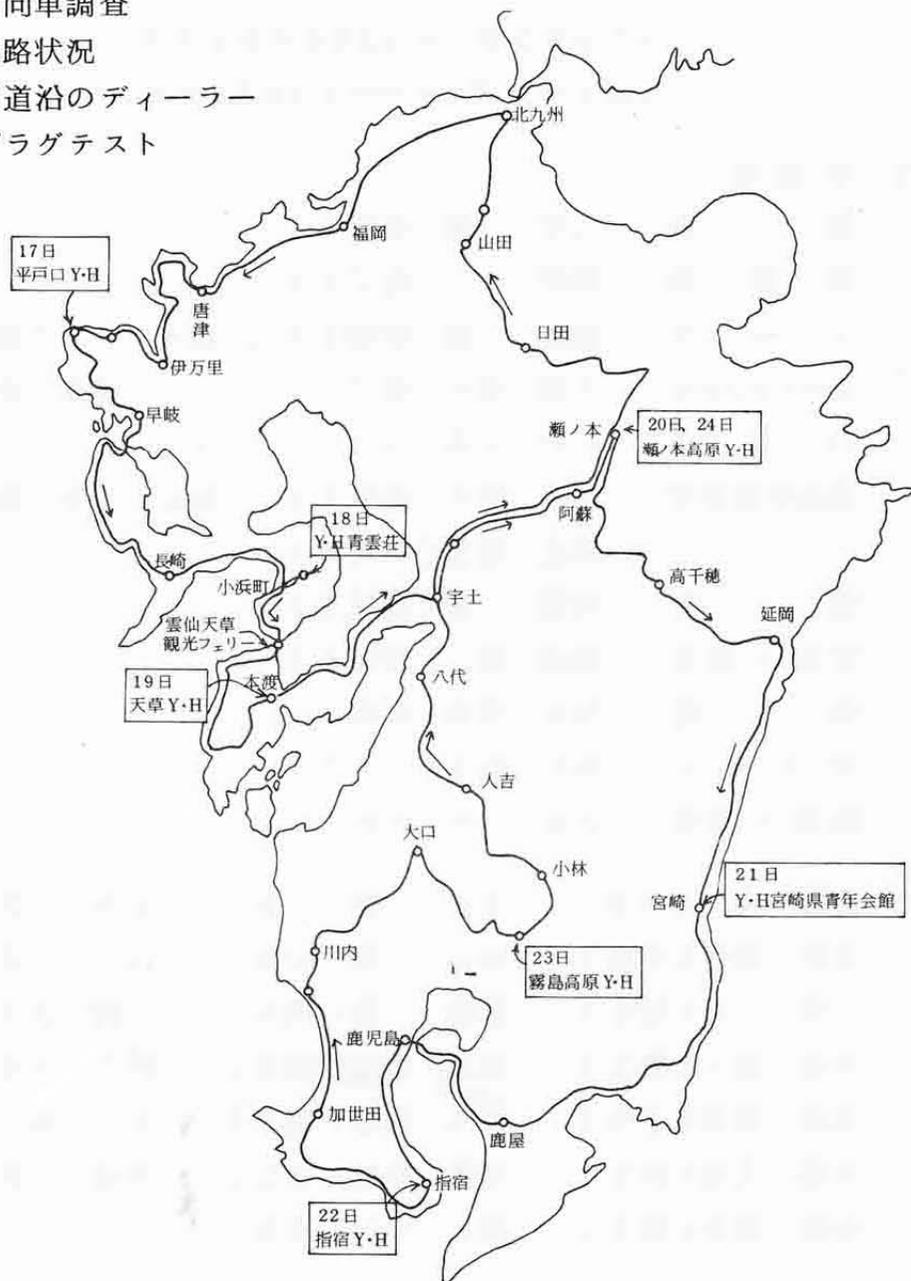
隊長	八木	(金属4)			
副隊長	早田	(電子3)			
コース	近藤	(制御3)	榎本	(機械3)	
ユースホステル	木場	(電子3)	山内	(環境3)	
OB会	石野田	(機械3)	帆足	(工化3)	
整備車輛管理	山下	(機械3)	坂田	(機械3)	
	四辻	(工化3)			
会計	舩重	(機械3)			
記録・調査	網田	(情報3)			
報道	西原	(制御3)			
ガソリン	西村	(工化3)			
救護・保健	倉地	(制御3)			
高橋	(OB)	本吉	(OB)	安永	(OB)
永田	(OB)	嶋田	(OB)	江頭	(金4)
三浦	(情4)	諸橋	(機4)	中村	(機2)
大原	(機2)	松元	(機2)	府内	(工2)
光成	(子2)	太田	(電2)	福川	(環2)
太田	(制2)	孝橋	(金2)	岩尾	(機2)
石田	(機2)	淵上	(子2)		

## 1. 目的

安全運転の修得、運転技術の向上及び各種テスト等を目的とする。

### ○調査ロードテスト

- 1) 燃料消費率
- 2) エンジンオイルの走行距離による粘度変化
- 3) ガソリンスタンド
- 4) 対向車調査
- 5) 道路状況
- 6) 国道沿のディーラー
- 7) プラグテスト



2. 参加車輛
- いすゞジェミニ1600LT (部車)
  - スバル1300G (部車)
  - 三菱ギャランGS (部車)
  - 三菱ギャランGTO
  - 三菱ギャランFTO
  - トヨタスプリンター1400SL
  - ニッサンブルーバード1600SSS
  - マツダグランドファミリア
  - トヨタスプリンター1200SL

3. 参加者

隊	長	早田	(電子4)		
副 隊	長	大原	(機械3)		
コ ー ス		光成	(電子3)		
ユースホステル		松元	(機械3)	石田	(機械3)
整備・車輛管理		島原	(金属3)	太田	(制御3)
		福川	(環境3)		
会	計	孝橋	(金属3)		
記 録 調 査		中村	(機械3)		
写	真	淵上	(電子3)		
ガ ソ リ ン		岩尾	(機械3)		
救 護 ・ 保 健		府内	(工化3)		
O B 会		太田	(電気3)		
近藤	(制御4)	山下	(機械4)	楨本	(機械4)
坂田	(機械4)	木場	(電子4)	四辻	(工化4)
石野田	(機械4)	舛重	(機械4)	西原	(制御4)
西村	(工化4)	倉地	(制御4)	帆足	(工化4)
高須賀	(機械2)	須藤	(工化2)	藤本	(機械2)
武藤	(機械2)	島村	(制御2)	山口	(機械2)
三原	(環境2)	石井	(工化2)	徳永	(電子2)
石松	(情報2)	山本	(金加2)		

昭和54年度春期遠征 中国・東海地方遠征 S54.3.22～S54.4.2

1. 目的 長距離運転に伴う諸問題の研究と、遠征を通じての部員の運転技術の向上及び相互間の親睦を目的とする。

○ 調査ロードテスト

- 1) 各車輛燃料消費量測定
- 2) ガソリンスタンド設置
- 3) 対向車調査(会社別・シートベルト・色)
- 4) 道路状況(制限速度)
- 5) 国道沿いのディーラーの設置状態
- 6) オイル調査
- 7) プラグ調査



2. 参加車輛
- ・いすゞジェミニ1600LT (部車)
  - ・スバル1300G (部車)
  - ・三菱ギャランGS (部車)
  - ・トヨタカリーナ1600ST
  - ・トヨタスプリンター1400XL
  - ・ニッサンサニー1400GX
  - ・三菱ランサー1400GL
  - ・三菱FTO1400GL

3. 参加者

隊	長	大原	(機械4)		
副	長	高須賀	(機械3)		
コ	ー	須藤	(工化3)		
ユース	ホ	藤本	(機械3)	石井	(工化3)
ス	テ				
ル		山口	(機械3)	三原	(環境3)
整	備				
会	計	武藤	(機械3)		
記	録	島村	(制御3)		
写	真	徳永	(電子3)		
O	B	石松	(情報3)		
救	護	山本	(金加3)		
早田	(電子院1)	舩重	(機械院1)	網田	(情報4)
松本	(機械4)	光成	(電子4)	孝橋	(金属4)
太田	(制御4)	府内	(工化4)	石田	(機械4)
白水	(電子2)	寺田	(機械2)	中村	(電子2)
畠中	(工化2)	阿部	(機械2)	浦田	(機械2)
大島	(開土2)	大野	(電気2)	尾辻	(電子2)
小野	(電気2)	川村	(電子2)		

## 九州一周遠征記

須藤 (工化3)

今は昔、一年の夏休み根性で運転免許を取って初めての長距離ドライブであった。まだ下手で、同乗者をずいぶんひやっとさせたことであろう。各地方の風景や方言など旅の楽しみの1つであるが、宿泊先のユースも楽しみの1つであると思っていた。

最初の宿泊先は、長崎の平戸ユースであった。何しろユースなどに泊まるのはこれが初めて、まず、ユースについて中に入り荷物を置いて、ユースの近辺にくり出し、その辺のストリート散歩でもしてやろうと思っていた。ところが、ストリートなどと気のきいたものはどこにもない。まわりは、草がうっそうと繁り、牛がふらふら歩いているしまつ。ここで、自分のユースというものの概念がくずれ去った。こうなったらユースの中でフィーバーだ(このころこの言葉は知られてなかった)。ユースで食事を終えて、ミーティング、これも初めての経験。先輩が、前に出て踊っていたのを覚えている。そして、寝床入り。朝は、何時か覚えていないが、早かったのを覚えている。長崎の街を見たかったが、次の目的地に向って、平戸を後にした。次の天草ユース、瀬ノ本ユースはあまり記憶に残っていない。

まずいパターンに落ち込んだのは、宮崎のユースであった。ミーティングの時、みんなでできる簡単なゲームで、僕は意に反してちょっとしたミスをしてしまった。それを目ざとくみつけたゲームの進行人に、僕の数人が輪の中央に呼び出され、罰ゲームを強いられた。両手で両足を持って、端から端まで競争するものであった。立ち上がりは好調、トップを力走していたのであるが、後半の追い込みでつまづき転倒。結局、ビリになってしまった。ところが、ギャラリーは大喜び、爆笑。人の災難は実に楽しいとみえる。再び僕1人でまた別の罰ゲームを強いられる。また、ここでギャラリーは大喜び。やっている本人のことを考えてほしいものだ。このときこそ人間不信に落ち込んでしまいそ

うであった。次のユースでは、誰かがいけにえになる番だとほくそえんだ。

次は鹿児島イブスキユースであった。ミーティングでのレクリエーションに参加し、ウルトラマンと8マンをやらされた。ここでの記憶はあまりない。

さて、次は霧島ユースである。このユースはユニークな人がやっていた。髪をピンクのリボンでたばね、スリムのGパンをはき、ブーツをはいていた。近々、結婚するらしくにやけた顔で彼のフィアンセを紹介していた。このミーティングのレクリエーションでは、よく覚えていないが何かをして、リボンの彼が目立った人を20人くらい前に呼び出した。当然といった雰囲気でも僕もよび出された。僕は別に目立ったとは思っていない。リボンの彼は僕の所につかつかと歩みより「君、出ろ」と腕をつかみ、前に僕をつれ出し、炭鋤節を踊らせたのである。炭鋤節を踊り始め、それをながめているギャラリーは、おもしろそうに手拍子をうつ。前に出された20人を、リボンの彼が、1人、2人ともとの席へ戻していく。前には数人が残され、まだ踊らされていた。リボンの彼の助手が、麦わら帽子とタオルを持ってきて、僕だけに麦わら帽子をかぶせ、タオルを首にまきつけたのだ。僕はそんなカッコ悪いと思い、拒もうとしたが、その場の雰囲気は、それを許すものではなく、僕はそれに甘んじてしまった。僕はごく普通にふるまい、ごく普通に踊っていた。ただ違っていたのは、僕だけいつもなぜか残されたのです。僕だけが、そのかっこうでただ1人、前で踊り続けた。ギャラリーは、笑いながら手をたたいていた。僕は、前に出たまま、リボンの彼が何か始めた。そして、罰ゲームの犠牲者として、女の子が呼び出された。ややポチャッとして、まあまあの子だった。罰ゲームは、僕の背中に乗り、蟬をやれというものであった。僕もまんざら悪い気はしない。いままでの下積みがようやく酬いられたのではなからうか。彼女は、ためらいながら、はずかしそうに蟬をやった。こんな子がはずかしながらやっているのは、実にかわいいものである。

最後にもう1つ記憶に残っていることがある。どこの宿泊先かは忘れたが、そこの風呂は温泉であった。そこで俺が、女湯をのぞいたというのだ。俺がそんな器用なまねをするわけがない(これはほんとうである)。後でわかったの

であるが、犯人は先輩であった。まったく、失敬である。

僕は目立つのはきらいではないが、以上のようなことでしか目立たないのかと思うと、どうも複雑な気持ちになる。もう2度ほど遠征を経験したが、それは実に楽しいものである。

<目次へ戻る>

## 昭和54年度中国・東海地方遠征記

尾 辻 (電子2)

3月22日(木)

正門前で記念撮影のあと、予定よりややおくれて尾道YHをめざしてスタートした。途中事故で渋滞した。小春日和の晴天で、しばしば眠くもなる。はじめて泊まる尾道YHは、ペアレントも同年代の若い人で、なかなかいい雰囲気だった。夜、近くの千光寺へ案内されて、他のグループの人達もいっしょに、尾道の夜景を眺めた。あまりきらびやかでなく、俗化されていないようすで、瀬戸内海の入江がよく似合う。その後のミーティングで、歌をうたった。畠中の目じりがたれさがってもう……。

3月23日(金)

昨日にひき続きいい天気だ。今日は中村といっしょにランサーである。緊張も少しずつとれてきたが、運転は、まだ安全運転にはなっていないようだ。1時すぎに、備前市でまたも事故のため渋滞。ついてないな。バイパスを出る出口がわからず、危険な目にあった。日も落ちて、あとは、自分たちで探さんといけん。こんなとき無線車であれば。やっとならぶ屋YHを見つけると、もう、スバルや他の車も到着していた。

3月24日(土)

きょうは、あいにくの雨で、運転もほとんどできなかつたし、通り過ぎる女の子にも手を振れなかつた。予定よりかなり遅れて11:30頃、京都に入る。京都・奈良をノンストップで行ったのは、とても残念だった。途中、FTO1

台がはぐれてしまい、結局、FTOを信じて見捨てることになる。初日と今日2回目のA級早田さんは、途中まで好調に進むものの、YHにつく前の最後のつめが甘く、いつも他の車に先を越されるが、今日も例外ではなかった。名古屋市内で道がわからなくなり、となりにいたカップルの乗ったRX7に先導をお願いした。快く引き受けてくれて、東山公園までスプリンター、ランサー他全4台を導いてくれた。やっとYHをさがしたところ、なんとFTOが先についていた。今日のOB会には、5名位のOBが出席して下さった。途中、ずっと古いOBの方が一人こられ、当時のなつかしい思い出を語ってくれた。

3月25日(日)

再び晴天である。すごく天気恵まれているようだ。名古屋を出て、静岡の日本平YHが目的地である。3:45、前方に雄々しい富士山を初めて見た。ほんとに美しい姿をしていた。ここでもまた、YHへの道をさがすのに一苦労した。結局、日本平パークウェイを通って行かねばならなかったようである。このYHの方針がYHらしくないYH、ということで、とても居心地がよかった。なんといっても入浴が10:00すぎまでよかったので、はじめてゆっくりと疲れをとることができた。りりしくも、インベーダーゲームが設置されていた。みんなお金をつぎこむのである。

3月26日(月)

朝、食堂のいすにつくと、窓越しに富士山が見えた。いい感じだったな。今日は、ついに伊豆の三余荘YHへ行くのである。はじめFTOに乗車していたが、途中で大州さんのギャランGSにかわった。白水が乗るはずだったらしく、何ともいえぬ、うらめしそうな目を向けるのだった。西津スカイライン～土肥峠間を運転したが、山道でのハンドリングがメタメタだった。大州さんに教えられた通りに練習しよう。

3月27日(火)

伊豆半島をぐるりと回り、箱根から再び日本平YHへ行った。伊豆半島の海岸線の景観は、最高だった。ものすごくいい、きてよかった。特に、途中休憩をとった所の海辺は遠浅で、海の色がまさに、青、緑のすっごくきれいな色だ

った。もう一度、何人かでゆっくりとまわりたい。日本平YHに到着すると、可愛い小学生の女の子がたくさんいた。高須賀さんは、YMCAのおにいちゃん。

### 3月28日(水)

今日は気のゆるみからであろうか、6:15に起きてしまい、整備にかけつけると、既に点検は済んでいた。二度とこのようなことのないようにと誓った。3:00ぐらいだったか、浜名湖につき、みんなでボートに乗った。須藤さんはボートに乗っているときも、つねにタオルを忘れない。おかしかった。水でぬれたせいか、車に乗るとおしりがかゆい。奥浜名湖国民宿舎が今日の宿泊所で、さすがにYHとちがってりっぱだった。食器洗いはしなくていいし、風呂は広い。広カーブでの追い越しは避けるべきであることを学んだ。

### 3月29日(木)

8号スプリンターの舛重チームだった。無線車にもかかわらず、ミスコースが多かったが、ミスコースするたびに、不思議と出たい道に出るので、そのたびに1~7号車を追い越した。合計3回もワープした。結局、びわ湖の賤ヶ岳YHに1着でゴールイン、うれしかったね。もっともっとA級の人の運転を観察して、A級の人のわざをぬすもう。

### 3月30日(金)

びわ湖から舞鶴へぬけて、兵庫の城崎へ行くコースだった。2日目の雨天、どしゃぶりで運転がしにくかったが、昼からは雨もあがって、若狭湾の眺めがすばらしかった。昼食のとき、近くのくだもの屋で、白水とリンゴを買ってかじった。遠征も残すところ3日となり、安全運転というものを自分なりにわかってきた。いま一度、初心に帰って、全員無事に工大へ帰れるよう気を引きしめていこう。

### 3月31日(土)

今日は、余部YHから、山蔭路を松江・宍道湖→出雲大社→日御崎と下っていった。海岸線に出ると、波しぶきでまっ白になっている。迫力ある日本海が広がる。太平洋岸のおだやかな海面とは正反対で、さすが日本海の荒波という

だけはある。再び山道走行をしたが、はじめの時よりはいくらかよくなったものの、まだまだだめだ。特に、ハンドルの戻しが悪い。ラリーをするにも、まず十分なハンドリングがなければ走れない。練習しなければだめだな。出雲大社の駐車場横のおそば屋さんの客引きをしていた女の子3人に精いっぱい手を振った。日御崎で愛媛大の自動車部を見かける。まったくの旅行気分、工大の遠征とはほど遠いようだった。やはりKITACはすばらしい。

4月1日(日)

いよいよ最後のYH萩を目指して出発した。途中、再び出雲大社へ寄り、今度は参詣した。天気は思わしくなく、萩へついたときは雨だった。なんと、榎本さんと西村さんが早くも出迎えに来ていた。工大には、みな就職先へ行った後で、だれもいないようだ。萩YHの女性のホステラーの多いこと、いままでこんなことなかったのに。

4月2日(月)

途中、石野田さんの出迎えをうけ、12:30すぎ、やっとやっと工大に到着。遠征をふりかえって、あらためて、安全運転とはこういうものだというのが、理解できたように思う。朝の始業点検も、はじめは、だらだらしてたのが、中頃から、機敏に行なえるようになったし、先輩とも親しくなることができ、遠征に行ってよかった。今後も、安全運転を励行しよう。

<目次へ戻る>

### 3年半をふり返って

大原 (機II4)

#### 思い出その①

まずなんといっても全日整備で名古屋にタダで行けたことである。最初つきそいで行くだけのつもりだったのだが、欠員ができて急きょ正選手として出ることになった。ゆえになんも勉強してなかった。まあ何とかやるやろと、8月1日早朝、九工大スタート。しかし真夏の、その上真昼になるとも

うたまらん、脱水症状のごとなつて汗も出んようになる。こんなんで名古屋までいけるとかいな、と思いつつも夜9時ごろ明石の孝橋宅につく。ここでビール飲み放題、すし食い放題。風呂に入って、クーラーつきの部屋でグッスリねむりこける。翌朝名古屋へ出発、午後から名大で説明会、その後宿屋に行く。宿屋でやっぱ少しは勉強せないかと本をあけて読む。車両部門の相棒武藤と作戦会議を開いたら、オッタマゲタ〜。武藤はな〜んも知らん。ドレンコックも知らんし、クラッチ高さ調整も知らん。あわてて一通り教えるが、教える本人もあんまり自信がない。不安、不安、不安、不安……。

そして当日8月3日、ロッキーのテーマとともに入場行進。その後淵上と徳永がペーパーテストに行く。残り大州、武藤と3人で試験会場に。単体は大州1人、単体部門の問題は動かかんエンジンを動くようにする。車両部門は基礎的な点検項目をやる。合図とともに競技開始、わかるのからやっていったが、わからんのがやっぱりいくつかあった。あがって、何ばしよるかわからんごとなるし、車の下にもぐりこむときは、つなぎのポケットの中に入つとった金をバラまくし、散々やった。大州の方をチラと見ると、セルは回われどエンジンはかからずといった風で、さかんにバックファイヤーをさせよった。こんなんで予選通るっちゃろか、不安、不安、不安……。

競技が終つて近くの喫茶店に行く。調子よかつたのは、淵上だけみたい。いっときして結果を見にゆく。なぜか、なぜか知らんが、予選通過である。本選に出れるのは28位までで26位、ウレシカ〜。喜びながら宿屋へ帰る。宿屋でメシを食つたあと、また武藤を特訓（前日と同様、教える本人もわかつてない）、8月4日本選に望む。今度はペーパーはなく、単体部門で大州と徳永、車両部門で淵上・武藤・私とにわかれる。車両の問題は、オーバーヒート、高速不調、ヘッドランプがつかんなどを直す。ヘッドランプ以外はまあまともにやつたつもりだが、結果をみるとあんまりよくなかつた。やっぱりKIT流の「こんなもん」という整備法じゃ、得点に結びつかんみたい。成績は28校中25位。1位上がっただけに終つた。その晩名古屋を立ち、8月5日朝孝橋宅に着く。朝めしくって昼まで寝て、昼メシにソウメン食つて

その晩工大に向けて帰る。8月6日朝、無事工大着。

腕がつかれてきたので、後は簡単に記す。

#### 思い出その②

2年、3年、4年と3回インカレに出れた。結果は言いたくない。

#### 思い出その③

2年のとき新人戦フィギュアで完走!! タイム10分00秒。結果は書きたくない。

#### 思い出その④

昨年のKITの試走で日出生台の近くでジェミニのタイヤが3本バースト(だれかさんのせいで)、スペアが1本しかなく、残りの2台で4人、5人乗車で帰り、すぐ大州と2人でタイヤを持ってゆく(その眠かったこと)。その時食べたイノシシ汁のうまかったこと!

その他書き出せばきりがないので、ここらでやめておく。

後輩諸君よ!!自動車部員であったという思い出をたくさんつくろう。

しかしオレは思い出ばかりにひたつとるつもりじゃないぞ。まだ1年以上あるから、ますます活躍するつもりである!!

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～

私が自動車部に入部して、早くも4年近くすぎようとしています。

ふりかえてみると、たくさんの思い出が残っています。

合宿、遠征、募金、全日整備大会、新人戦フィギュア、全九フィギュア、インカレラリー、全九ラリー、そしてスカベン、KITナイトラリーづくりなどなど……。

楽しかったことはもちろん、きつく苦しく、はがゆいことも今ではなつかしい思い出となって残っています。

諸先輩の方々もこの部誌によって、昔の九工大自動車部時代のことを思い出してもらえらるることと思います。

最後に、藤原先生又諸先輩の方々に、自動車部がより一層発展するよう末長く御指導下さることを心からお願い致します。

また、後輩諸君が今まで先輩が築いてきた自動車部を受けつぎ、よりよきものとしてくれることを期待しています。

～・～

私、前年度主将をやっておりました大原です。

昨年幹部がだらしなかったせいで、部誌を出せなかったことを深く、深く反省しております。

もし部誌にスペースがありましたら、これを載せてもらうつもりで書いています。

前年度の幹部を独断と偏見をまじえて、手短かに紹介させていただきます。

主将・大原 …… 別に言うことなし。

副将・松元 …… 狂いだすと手におえん。

副将・光成 …… 自宅生のような下宿生。

会計・孝橋 …… 几帳面、貯金が趣味。

書記・中村 …… 無類の女好き、近ごろはオカマを相手にしている。

整備・島原 …… 整備力部内で一番、時々狂う。

ラリー・太田 …… 借金が趣味、ラリーのためならなんのその。

フィギュア・福川 …… この男のおる研究室の先生は好かん。

連盟・府内 …… 空気そのもの、ここ一番のときはちゃんという。

ガソリン会計・岩尾 …… 平和な人につきる。

体育幹事・石田 …… スプリンター1200SLをこよなく愛す男。

OB連絡・淵上 …… 外泊が趣味、いつもどこにおるかかわらん。

OB連絡・太田 …… 一年のときはラリー好き。夢ふくらむ国家公務員。

以上であります。ここにおる誰一人としてぬけていたら、去年はうまくいかなかったと思っています。みなさん御苦労さんでした。

## 自動車部に入部して

山本 (金加3)

もし、帆足さんに声をかけられなかったら、自動車部には入部していなかったと思います。やっていけるのだろうかという一種の不安はありましたが、女の先輩がいることだし、どうにかなるだろうと。

最初をとまどって、どうしていいかわからず、先輩もしかり。なかなか慣れませんでした。好きなようにやってきたような気がします。1年の夏休みにどうにか免許がとれほっとして、フィギュアは首をつっこんだが全くダメ。ラリーは、全九ラリーにナビで参加しましたが、アンラッキーにもマフラーの損傷でリタイヤ。でも、藤原杯ではカリをして一度優勝、このときはうれしかった。遠征は、楽しかったというより疲れしました。名古屋ユースでOBの方々に会えたことは、とても有意義でした。

好きなことやるんだから、苦しいことがあってあたりまえ、誰かがいってたこの言葉、そう思えるようになったのは、引退間際。最後まで余裕がなく、人の思いやりに気づけなかったことが、心残りです。来年は、女の子が2・3人まとめて入部してほしいと願っています。

☆☆

○ 次の方々から寄付をいただきました。

昭和52年	黒 瀬	(50年卒)
	田 中	(50年卒)
	首 藤	(50年卒)
	中 西	(50年卒)
昭和53年3月	堀 川	(49年卒)
昭和54年1月	畑 中	(50年卒)

昭和54年遠征OB会にて

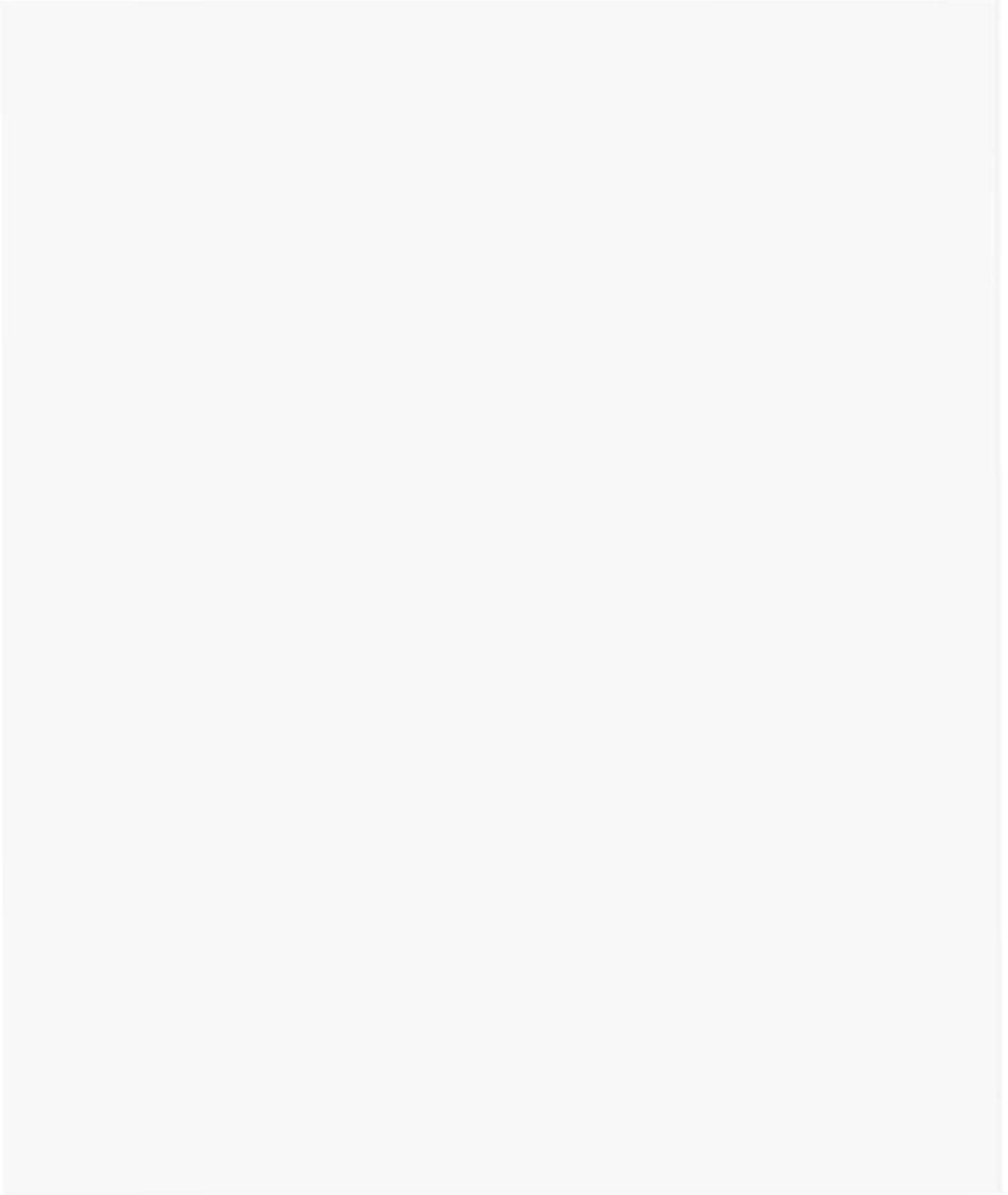
宇塚	(43年卒)	
黒瀬	(50年卒)	
溝尻	(50年卒)	
武地	(51年卒)	(敬称略)

この紙面をかりてお礼申し上げます。

- 流星第9号の新入部車の寄付の欄で、伊東広一先輩の寄付が「1万円」となっていますが、これは「10万円」の誤りでした。  
訂正し、深くお詫び申し上げます。
- 部則は、ただ今、改正中ですので、割愛させていただきます。
- 昭和52年度幹部の皆さんから、記念品としてガレージジャッキを寄贈していただきました。



## 昭和 54 年度役員部員名簿



<目次へ戻る>

## 編 集 後 記

流星 9号が出版され、2年の歳月がすぎて、やっと10号  
が出せました。

この編集を手がけはじめたときには、あれもこれも載せよ  
うと考えていたのですが、考えていたものの半分も載せるこ  
とができなかったような気がします。これは、編集委員の怠  
慢からくるものだと、深く反省しています。しかし、この部  
誌により、少しでも現在の部の現状を知ってもらい、OBと  
部員とのかけ橋となれば幸いです。

流 星 10 号

昭和 55 年 2 月 日 発行

発 行 者 流星編集委員会

印 刷 所 (株) や ま だ